

西湘バイパス～真鶴道路間周辺の道路交通渋滞の緩和に向けて、 渋滞対策をとりまとめ！

- 記者発表資料 -

「神奈川県西湘地域道路検討会」(平成13年5月設立)では、国道135号西湘バイパス～真鶴道路間周辺における渋滞対策について、道路利用者の意向を踏まえつつ、約2年間にわたり検討を行ってまいりました。

このたび、第4回検討会を3月26日に開催し、西湘バイパス～真鶴道路間周辺の渋滞対策をとりまとめましたので、その結果をお知らせします。

【基本の方針】

現道の機能拡充を最大限行うこととし、バイパスは2車線の計画とします。
なお、当面は現道の対策を早期に実施することとします。

【具体的対策】

方針に基づき既に実施した対策

渋滞している交差点を早期に改善するため、現道内で実施可能な改良を緊急的に行いました。具体的には石橋IC等の交差点部においてランプ合流部の路面標示等を変更(平成14年7～11月)し、一部で渋滞の減少効果を確認しました。

現在実施中の対策

渋滞の著しい根府川分合流部において、山側に用地を確保し、右折レーンの延伸や合流部の視認性を改善する交差点改良を平成14年度から事業化し進めています。

今後実施する対策

・ソフト対策
道路交通の分散による渋滞緩和のための広域的な情報提供を図ります。

・長期的対策
自然環境に配慮して主に山側を中心とする2車線のバイパスルートを基本とし、地形や自然環境に極力影響を与えない構造とします。

なお、今後、専門家も加えた新たな検討会を設立し、実施中の対策等の効果を検証しつつ、バイパス案の具体化に向けた検討を進めます。

また、広域的な情報提供については、別途関係機関と連携し行っていくこととします。

平成15年 4月 4日
国土交通省横浜国道事務所
神奈川県県土整備部道路整備課

発表記者クラブ

さいたま新都心記者クラブ
竹芝記者クラブ
横浜海事記者クラブ
神奈川建設記者会
神奈川県政記者クラブ

お問い合わせ先

国土交通省横浜国道事務所	調査第一課長	ほんだ やすひで 本田 康秀
電話045-316-3536	(直通)	
神奈川県県土整備部道路整備課調査班	技 幹	てしま かつお 手嶋 勝夫
電話045-210-6406	(直通)	

「神奈川県西湘地域道路検討会」

西湘バイパス～真鶴道路間周辺における道路交通渋滞の緩和に向けて
渋滞対策をとりまとめ！

1. 「神奈川県西湘地域道路検討会」について

神奈川県小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町からなる西湘地域は、首都圏近郊でありながら豊かな自然・観光資源を有すると共に、首都圏と東海・伊豆方面とを結ぶ交通の要衝ともなっています。

現在、当該地域の幹線道路としては、一般国道1号、一般国道135号、有料道路として小田原厚木道路、箱根新道、西湘バイパス、真鶴道路などが整備されていますが、特に休日や観光シーズンを中心に慢性的な渋滞が発生しています。

これまでに「かながわ交通計画」（神奈川県）等を踏まえ、関係各機関において西湘バイパスの改築、国道1号小田原箱根道路の整備、小田原環状道路（仮称）の整備等を鋭意実施してきたところですが、未だ広域幹線道路網の整備が途中段階にあることなどから、特に休日や観光シーズンを中心に慢性的な渋滞が発生しています。

このため、平成13年5月に関係機関により構成する「神奈川県西湘地域道路検討会」を設立し、神奈川県西湘地域における将来の広域幹線道路網を踏まえつつ、西湘バイパス～真鶴道路間周辺における渋滞対策の検討を下記のとおり行うことといたしました。

【検討対象地域】

神奈川県小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町

【検討事項】

- 1) 神奈川県西湘地域における広域幹線道路網の現状及び課題の把握。
- 2) 神奈川県西湘地域における広域幹線道路網整備のあり方についての検討。
- 3) 西湘バイパス～真鶴道路間周辺における渋滞緩和にむけた対応策や整備手法等の検討。

【検討会構成機関】

国土交通省関東地方整備局、日本道路公団東京建設局、神奈川県
小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町

【検討会開催経緯と主な検討内容】

第1回	平成13年	5月30日	設立、西湘地域における道路交通の現状等の把握
第2回	平成14年	3月27日	西湘地域における道路整備のあり方の検討
第3回	平成14年	12月25日	西湘バイパス～真鶴道路間周辺における渋滞対策の検討
第4回	平成15年	3月26日	整備手法の検討、検討結果のとりまとめ

2. 西湘地域における道路交通の現状と課題について

1) 道路交通の現状

西湘地域における広域的な道路交通の状況と詳細な渋滞の状況（渋滞箇所、渋滞の発生状況、渋滞原因等）等を把握するため、平成13・14年に西湘地域の道路交通現地調査を実施いたしました。

この結果、西湘地域における道路交通の現状として主に下記のような事項を把握しました。

観光等を目的とする交通が多く、休日等に交通が集中し渋滞が発生しています。国道135号（西湘バイパス～真鶴道路間）及び国道1号（小田原厚木道路～箱根新道間）では、前後の区間と異なり並行してバイパスが無いこと等から交通容量が不足し、渋滞が発生しています。（次頁の部参照）

国道135号（西湘バイパス～真鶴道路間）では、渋滞を避けるための抜け道利用車両が再度国道へ合流すること、交差点合流部の視認性が悪いこと等が原因で、3箇所の交差点部で渋滞が発生している。

著しい渋滞のため、例えば真鶴道路（新道）を利用して湯河原町の千歳橋から小田原東ICへ行くのに2時間半以上（渋滞のない場合、約20分）かかることもあり、観光産業等にも影響が生じています。

渋滞している時間帯では、箱根峠～小田原市内や湯河原～小田原市内の所要時間は国道1号や海岸沿いの真鶴道路等を利用するルートに比べて、箱根新道・箱根ターンパイクを利用するルートの方が時間的に短いことが多い。

【参考資料】



)横浜国道事務所管内図から加工

西湘地域広域図

2) 主な課題

西湘地域では平日と休日等（土曜・日曜・祝日・祭日・旧盆期間・年末年始期間等をいう。）との道路交通量の格差が大きく、渋滞が休日等に集中して発生していることから、西湘地域における道路交通の主な課題としては下記の事項があげられます。

国道135号（西湘バイパス～真鶴道路間）等のように、前後の区間と異なり並行してバイパスが無い区間への対応
交通容量の拡大方策 等
渋滞を避けるための抜け道利用車両への対応
抜け道となる道路の機能回復 等
海岸沿いの真鶴道路等、特定の道路への道路交通集中の回避
広域的な道路交通情報の提供による道路交通の分散化

3. 西湘地域における道路利用者のアンケート調査について

西湘地域における道路利用者の特性（利用した経路、利用の目的、出発地と主な目的地、利用した道路を選んだ理由等）や西湘バイパス～真鶴道路間周辺の渋滞の状況を踏まえた対策の必要性とその内容等について、道路利用者の意向を把握するため、平成14年にドライバーを対象としてアンケート調査（道路利用実態調査）を実施しました。

この結果、西湘地域における国道や有料道路を利用した道路利用者の意向として、主に下記のような事項を把握しました。

渋滞の著しい国道1号や海岸沿いの真鶴道路等を利用ルートとして選ぶ理由は、最短の距離、最短の時間で到達することができると思っているため。
西湘バイパス～真鶴道路間の渋滞対策の実施を8割以上の方が、また7割以上の方がその早期整備を望んでいます。
西湘バイパス～真鶴道路間の具体的な渋滞対策としては、
・国道135号の部分的な改良
・西湘バイパスと真鶴道路間を結ぶバイパスの整備
が大勢を占めています。
交通情報の少なさ等に不満があり、リアルタイムでの情報提供等を望んでいます。

4. 西湘地域における広域幹線道路網整備のあり方について

これらの道路交通の現状・道路利用者の意向等を踏まえ、西湘地域における広域幹線道路網整備のあり方といたしまして、関係各機関が引き続き「かながわ交通計画」等に基づき広域幹線道路等の整備を促進しつつ、特に渋滞の著しい西湘バイパス～真鶴道路間周辺における渋滞対策の実施及び検討を先行することとしました。

5. 西湘バイパス～真鶴道路間周辺における渋滞緩和に向けた渋滞対策

1) 基本的方針

現道の機能拡充を最大限行うこととし、バイパスは2車線の計画とします。
なお、当面は現道の対策を早期に実施することとします。

2) 具体的対策

基本的方針に基づき、道路交通の現状、地域特性（地形、土地利用等）及び道路利用者の意向等を踏まえ、下記の渋滞対策をとりまとめました。

既に実施した対策

渋滞している交差点を早期に改善するため、現道内で実施可能な改良を緊急的に行いました。具体的には石橋IC等の交差点部においてランプ合流部の路面標示等を変更（平成14年7～11月）し、一部で渋滞の減少効果を確認しました。

現在実施中の対策

渋滞の著しい根府川分合流部において、山側に用地を確保し、右折レーンの延伸や合流部の視認性を改善する交差点改良を平成14年度から事業化し進めています。

今後実施する対策

・ソフト対策
道路交通の分散による渋滞緩和のための広域的な情報提供を図ります。

- ・長期的対策

自然環境に配慮して主に山側を中心とする2車線のバイパスルートを基本とし、地形や自然環境に極力影響を与えない構造とします。

3) 長期的対策の整備手法

長期的対策の整備手法(事業主体含む)につきましては、一般道路事業による整備や有料道路事業の活用等が考えられますが、有料道路事業を巡る現下の諸情勢等を踏まえ、今後とも検討を行うことが必要です。

4) 今後の進め方

今後、専門家も加えた新たな検討会を設立し、実施中の対策等の効果を検証しつつ、バイパス案の具体化に向けた検討を進めます。

また、広域的な情報提供については、別途関係機関と連携し行っていくこととします。

日本道路公団では、広域的な情報提供の取り組みの一環として、平成14年度末に、小田原厚木道路平塚PA内に情報提供コーナーを設置し、渋滞情報等を掲載した広報誌『Road Show』(ロードショー)を配布するなどのソフト対策も開始しました。